分野	基礎分野	科目	哲学	単位	1	時間数	15
学年	4年	時期	前期	講師名	佐藤 俊一		
科目概要	人や出来事をありのまま理解するにはどうしたらいいのか。この科目においては、哲学が提供する様々な問いを受講者に提供する。それらを基にして、私たちの日常・非日常の体験が学問の基本となること。一人ひとりの体験から意味を発見し、概念化するために必要な感性や理性を磨くことを行う。						
科目目標	普段あまり深く考えることのない事柄が、実は哲学的問題と隣り合わせであることを理解する。そして、常識を揺さぶるような問いに対して深く考え、自身の課題として表現する力を身につける						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	学ぶことと私	オリエンテーション 受講者の一人ひとは、学ぶということをどのように考えているだろうか。表面に見えているものだけでなく、原点から出発して疑問や問いを発することは、なぜ必要なのか。続いて、知らないことへの問いと知っていることへの問いを検討する。			講義		
2	心と身体は別のものなのか	心とは目に見えないものであるが、人間にとっては身体よりも上位に捉えられることが多い。また、看護が対象とする身体とは、どのように理解し、接したらいいかと考えてみよう。			講義＋演習		
3	感じることと考えること	大人になったのだから、「考えてから発言しなさい」と言われる。実際に頭で考えることが優先されているが、本当にそれでいいのだろうか。身体で感じることから問いかけを行ってみよう。			講義＋演習		
4	なぜ、行動には責任があるのか	普段の生活では、責任という言葉は稀にしか登場しない。しかし、何か事件が起こると必ず関係者の責任が問われる。改めて、責任とは何か、何に対するものなのか、基本に戻って考え、行動できるようになろう。			講義＋演習		
5	話し合いは、なぜ大切なのか	話し合うことの必要性を多くの人は知っている。しかし、実際の場面になると、軽視されたり、主体的に参加しないことがある。面倒だと感じる人もいるだろうが、他者を、自分を大切にするには話し合い、対話できる関係になることの必要性を学んでいこう。			講義＋演習		
6	自分らしくあること	自分の言動が、自分らしくないと感じたことがある人は多くいるだろう。そこでは、自分らしさがあることが前提になっているのだが、言葉にするのは難しい。幸福と不幸な時とで、どちらが自分らしくいられるのかという問いから一緒に考えてみよう。			講義＋演習		
7	不老不死に価値はあるのか	健康で長生きしたいと多くの人が思っている。ところが毎年、たくさんの方が自死を選んでいる現実がある。私たちは、誰にとっても一回の人生の持つ意味を考えてみよう。そして、どのように生きたらいいのか問いかけよう。			講義＋演習		
8	他者とともにいることと一人でいること	一人ぼっちになること、孤立を避ける人が多い。他方でコロナ下において、社会とのつながりを失くした人たちを支援する動きも始まっている。講義の最後に、改めて他者ととも生きること個々の自律した生き方を検討し、各自のこれからの生き方を確認してみよう。			講義＋演習		
テキスト	佐藤俊一 ケアを生み出す力—傾聴から対話的關係へ 川島書店 2011						
参考書	佐藤俊一 スピリチュアリティを目覚めさせる—均質する社会を現象学から問う 川島書店 2020						

自己学習への指針	これから看護を学んでいくうえで、日々の生活の中であたりまえにしていること、特に受講者一人ひとりの人へのかかわりが大切になります。事前や事後の学習において、日常の自分とつながりを見つけて、学べるようにしましょう。
評価方法	提出してもらった課題とレポート試験で総合評価する。

【哲学 15 時間】

科目設定の理由		教育内容
目的 哲学的な問題について触れ、筋道を立てて考える姿勢を養う 目標 普段あまり深く考えることのない事柄が、実は哲学的問題と隣り合わせであることを理解する。そして、常識を揺さぶるような問いに対して深く考え、仮説を立てて表現する力を身につける	1	学ぶことと私…新しく知ることと既知への問い
	2	心と身体は別のものなのか…身体しての精神
	3	感じることと考えること…感性と意識すること
	4	なぜ、行動には責任があるのか…責任存在としての人間
	5	話し合いは、なぜ大切なのか…対話的關係がもたすこと
	6	自分らしくあること…幸福と不幸がもたらすもの
	7	不老不死に価値はあるのか…生の一回性と個々の独自性
	8	他者とともにいることと一人であること…共生から生まれる自律

分野	基礎分野	科目	倫理学	単位	1	時間数	15
学年	1年	時期	前期	講師名	小館 貴幸		
科目概要	看護師は患者にとって最も身近な医療者である。患者の顔や症状がすべて異なるように、患者へのケアも各自に配慮し寄り添ったものでなくてはならない。本講義では、看護師として「いのち」と向き合う上で大切な倫理観を養い、生命倫理の諸原則や生命に関する具体的問題を取り上げることによって、自ら考える力と多角的な患者理解の視点の獲得を目指す。						
科目目標	<p>1 看護師を志す者として、「いのち」の尊厳を尊重することができる。</p> <p>2 倫理学とは何かを述べることができる。</p> <p>3 「医の倫理」と「生命倫理」の概略や諸原則について説明することができ、両者の相違を述べることができる。</p> <p>4 生命倫理の具体的問題について多角的に理解し、自分の考えを述べることができる。</p>						
回数	テーマ	学習内容		学習形態	備考		
1	「いのち」の尊厳と倫理	「いのち」の尊厳について考察し、医療の本質を問う。基本的諸事項として、倫理とは何かを探求する。		講義、 質疑・応答			
2	専門職業人としての倫理	医療の原点である『ヒポクラテスの誓い』や『ナイチンゲール誓詞』を読み解きつつ、「医の倫理」の三原則を学び、その本質に迫る。		講義、 資料読解			
3	「医の倫理」と「生命倫理」	医学の負の歴史に目を向けつつ、患者の人権の確立やそれぞれの宣言を概観し、現代医療の根幹を成す生命に関する倫理（生命倫理）の成立過程を学ぶ。		講義、 映像資料			
4	生命倫理の四原則①	生命倫理の自律尊重の原則を取上げ、現代医療の根幹をなすインフォームド・コンセント、セカンド・オピニオンなどを学ぶ。		講義、 映像資料			
5	生命倫理の四原則②	生命倫理の他の三原則（善行・無危害・正義）を取上げ、それぞれの詳細について学ぶ。		講義、 映像資料			
6	出生前診断	生命の始まりをめぐる問題として、出生前診断を取上げ、その目的や意味などを理解し、出生前診断の倫理的問題や選択的中絶の是非などについて学ぶ。		講義、映像 資料			
7	安楽死と尊厳死①	生命の終わりをめぐる問題として、安楽死と尊厳死を取上げ、その基本的諸事項や、安楽死を考える際の論点と許容条件について学ぶ。		講義、映像 資料			
8	安楽死と尊厳死②	安楽死や尊厳死をめぐる具体的事例の検討を行うことによって、安楽死問題の本質を理解する。		講義、 映像資料			
テキスト	朝倉輝一編『なぜ生命倫理なのか』大学教育出版、2024年。						
参考書	授業内で適宜指示する。						
自己学習への指針	講義とテキストを補い合うことによって、立体的により深い理解が可能になります。事前にテキストの該当箇所に通して講義にのぞみ、講義後はプリントを復習して知識の定着を心掛けること。また、日頃から「いのち」にまつわるニュースに敏感でいてもらいたい。						
評価方法	単位認定試験（60%）、小テスト（10%）、授業の取組態度[課題やリアクションペーパーなど]（30%）の総合評価						

分野	基礎分野	科目	人間工学	単位	1	時間数	15
学年	1年	時期	前期	講師名	三澤 哲夫		
科目概要	人間工学の意義と役割、ヒューマンエラーの防止や看護姿勢・動作による負担の軽減などについて基本的な考え方を理解し、安全と健康に配慮した看護業務を行うために必要な知識・技術・能力を習得する。						
科目目標	1 人間工学の意義と役割および看護との関わりを理解できる 2 ヒューマンエラーについての知識と防止対策について理解し実践できる 3 看護における作業負担と軽減対策について理解し実践できる 4 医療・看護における安全と事故防止対策について理解し実践できる						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	人間工学の歴史と意義・役割	人間工学が誕生した経緯と意義・目標を確認し、看護領域における役割について理解する			講義		
2	人間工学の方法と応用	バリアフリーデザインやユニバーサルデザインなど人間工学に関連する領域の知識と技術、看護領域への人間工学の展開の方法等について理解する			講義		
3	看護動作と負担	看護における作業姿勢・作業動作の特徴と健康影響の関係について力学の視点から確認し、負担軽減対策を理解する			講義		
4	ボディメカニクス(1)	看護動作時のボディメカニクスの知識・技術の応用について、筋・骨格系の特性と力学的相互作用の観点から理解する			講義		
5	ボディメカニクス(2)	看護動作時にボディメカニクスを応用することによる作業負担の軽減と安全におよぼす効果について理解する			講義		
6	ヒューマンエラー(1)	人間のミスが原因で発生する様々な安全上の問題について人間工学の視点から解説し、防止方法の基本について理解する			講義		
7	ヒューマンエラー(2)	医療事故を対象として、事故発生に至った要因を人間工学の視点から解説し、事故を防止するために看護職としてどのように取り組むべきか理解する			講義		
8	安全と人間工学	看護師と患者の双方に安全で快適な看護環境を構築するための方法等について人間工学の視点から確認し理解する			講義		
テキスト	小川鑛一 著：看護の環境と人間工学 サイオ出版 2018						
参考書							
自己学習への指針	人間工学には、日常の生活における不便さを解消することによって人間生活の向上を目指し、健康的な生き方や福祉に貢献するという目標がある。そのため、道具や機械の使い勝手、表示や標識の見え方、看護動作による負担など日常の行動全般を対象に観察する目を養い、「なぜそうなのか」、「どう改善すればよいか」などを考える習慣づけをする。また、看護師の最大の役割は、対象者(患者)の安全と快適性の確保と維持を図ったうえで健康を回復させることにあるので、関連する科目の知識と技術との連携を視野に入れて複合的に考える。						
評価方法	出席状況、単位認定試験						

分野	基礎分野	科目	生物学	単位	1	時間数	30
学年	1年	時期	前期	講師名	新沼 和彦		
科目概要	看護の対象となる「人間」は地球上の生物の1種である。この「人間」が生命を維持するため、何が必要かを知り、その現象を踏まえた上で医療看護に反映させ、充実した看護職をなす教養として欲しい。内容は「生命とは何か」を理解することを念頭に置く。医療が活用する人体の恒常性、それに伴う生体の防御・神経伝達のシステムを中心に生体の構造・遺伝の仕組みなどについて学ぶ。						
科目目標	1. 生命体(人間を含む)の構造と生命の維持について理解できる。 2. 遺伝情報(DNA)の伝達・発現の仕組みを理解できる。 3. 生命体の維持・調節に重要な恒常性(ホメオスタシス)について理解できる。 4. 生命の歴史と多様性に関わる進化と環境のかかわりについて理解できる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	生命体のつくりとはたらき	1. 細胞とその構造 2. 細胞の化学成分 3. 細胞膜の輸送	・真核細胞の構造 ・輸送物質の選択		講義		
2	生体維持のエネルギー	1. 生体内の化学反応 ・エネルギー変換 2. ATPの生合成 ・光合成	・酵素とその働き ・解糖系 ・酸化的リン酸化		講義		
3	細胞の増殖とからだのなりたち	1. 細胞分裂 ・染色体とDNA ・分化と老化	・体細胞分裂と減数分裂 ・器官系(細胞の役割の細分化)		講義		
4	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ(1)	1. 遺伝の法則と染色体 ・メンデルの法則 ・連鎖と組み換え 2. 遺伝情報の担い手 ・DNAの構造と役割	・染色体と遺伝子 ・DNAの複製		講義		
5	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ(2)	1. 遺伝情報の伝達 ・RNA合成 2. 変異 ・染色体突然変異 3. 遺伝子組み換え技術とゲノム 4. ヒトの遺伝	・DNA、RNAからのタンパク質合成 ・遺伝子突然変異 ・血液型の遺伝		講義		
6	生殖と発生	1. 無性生殖と有性生殖 2. 動物の受精と発生 ・配偶子	・生殖の方法 ・受精 ・分化		講義		
7	個体の調節(1)	1. ホメオスタシス(恒常性) 2. 各器官の働き① ・呼吸系	・消化系 ・循環系		講義		
8	個体の調節(2)	1. 各器官の働き②	・免疫系 ・排出系		講義		
9	個体の調節(3)	1. 神経性相関 ・自律神経の働き 2. 液性相関	・自律神経系の配置 ・内分泌とホルモンの役割		講義		
10	刺激の受容と行動(1)	1. 神経系における情報処理の特徴 ・細胞間の情報伝達 2. 神経系の情報伝達 ・電気信号による神経の興奮の伝達			講義		
11	刺激の受容と行動(2)	1. 神経系の系統的発達 2. 効果器のはたらき 3. 脳の働きとその分布	・管状神経系 ・細胞運動とその仕組み		講義		
12	生命の進化と多様性	1. 化学進化と生命(生物)の起源と進化 2. 生物の多様性の歴史			講義		

		3. ヒトの起源と進化		
13	生物と環境のか かわり	1. 生物の集団 ・動物の社会 ・食物連鎖 2. 生態系 ・生態系の経済 ・生態系の物質循環	講義	
14	地球環境とヒト との共存	1. 人間活動による環境への影響 ・食糧 ・エネルギー産生 ・環境汚染 2. 生物多様性の保全 ・絶滅の危機にある動植物	講義	
15	問題点とまとめ	1. 今後の生物研究における問題点 ・医療における IPS 細胞利用 ・環境破壊 ・国外からの生物の外来種問題 2. 「生物学」学習内容の再確認	講義	
テキスト	系統看護学講座 生物学 医学書院			
参考書				
自己学習への 指針	毎回講義内容の重要点を「確認問題」として各自にプリント配布するので、そのプリントを学 習に利用する。			
評価方法	単位認定試験			

分野	基礎分野	科目	情報科学	単位	1	時間数	30
学年	1年	時期	前期	講師名	段ノ上 秀雄		
科目概要	保健医療福祉分野における ICT 活用は必須となり、PC 及び情報の活用・管理に関する知識と技術もまた、必要不可欠である。特に患者情報に直接接する看護師は、権利保護のため情報管理に努める義務もある。本科目では、まず看護における情報およびその活用とは何かを知る。そして、演習を通じて活用方法とその留意点を学び、医療情報管理に必要な基本的知識と技術を修得する。						
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報とは何か、看護における情報の取扱いと留意点を説明できる。 2. PC と主要なソフトウェア (Word、Excel、Power point) などの基本的操作ができる。 3. 看護に関する文献検索し、活用することができる。 4. Power point などを用いて課題について発表することができる。 						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	情報とは何か / 医療・看護における情報	コースガイダンス <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の定義と特徴 2. 医療と看護における情報 3. 学校生活におけるコンピューターの活用 			講義		
2	電子文書作成と電子メール活用の実際	文書作成ソフトウェア (Word) の活用と電子メールの作成 <ol style="list-style-type: none"> 1. Word による文書作成 2. 電子メールの活用とリテラシー 3. 電子メール作成の実際、課題提示 			講義/演習		
3	コンピューターの基礎知識	コンピューターの基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピューターの基礎 2. コンピューターの仕組み 3. ソフトウェア <ol style="list-style-type: none"> 1) オペレーティングシステムについて 2) アプリケーションソフトウェアについて 4. ネットワークについて 			講義		
4	臨床における ICT システムとその活用	臨床における ICT システム <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院情報システム 2. 電子カルテシステム 3. 看護に関するシステム 4. その他のシステム 5. 情報共有と ICT 活用の一例 			講義		
5	情報セキュリティと情報リテラシー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報セキュリティ <ol style="list-style-type: none"> 1) 脅威の種類と特徴 2) 情報セキュリティ対策 2. 情報リテラシー <ol style="list-style-type: none"> 1) ネットコミュニケーションの基礎 2) モバイル機器の使用とマナー 3) 著作権・商標権、課題作成における注意点 4) 個人情報の取り扱い 			講義		
6		情報活用の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1. インターネット上で活用できる情報へのアクセスと注意点 2. 文献検索の方法 3. 文献検索情報および収集した情報の整理 *興味のある看護についてのキーワードをもとに			演習		

7	表計算ソフトウェアの基本操作	表計算ソフトウェア（Excel）の基本的な活用 ～データ入力・集計・解析方法 1. データの入力と表示方法 2. 単純集計 合計と平均 3. 正規分布	講義	
8	表計算ソフトウェアの応用操作	表計算ソフトウェア（Excel）の応用 1. グラフ機能の使用 2. 図表作成および共有	講義/演習	
9	スライド作成（基本）	プレゼンテーションソフトウェア（Power point）の基本 1. パワーポイントとは 2. 効果的に伝えるスキル 3. 効果的に見せるスキル	講義	
10		プレゼンテーションの資料作成（個人ワーク） 課題提示	演習	
11	スライド作成（応用）	プレゼンテーション資料の作成（グループワーク）	演習	
12			演習	
13	プレゼンテーションの実際	課題に関する発表 ※発表および質疑応答（10分）	演習	
14				
15	学習のまとめ	看護および医療における情報と、その活用に必要な基本的知識・技術（振り返り） AIと医療における今後の展望	講義	
テキスト	『看護のための情報リテラシー —ICT を活用した情報科学の基礎から Office の操作まで—』 佐瀬雄治（東京図書） 個人のPCを持参する（OSはWindowsを推奨）			
参考書	系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 エッセンシャル 看護情報学 医歯薬出版株式会社 など適宜紹介する			
自己学習への指針	パソコンの起動・終了操作や文字入力を習得しておくこと。			
評価方法	2/3以上の出席を前提に、①授業参加・貢献度・グループ発表 60%、②筆記試験 40%、あわせて60%以上の得点があることが合格の基準である。			

分野	基礎分野	科目	論理学	単位	1	時間数	15
学年	1年	時期	後期	講師名	関谷 雄磨		
科目概要	<p>「論理」というのは難しい言葉ですが、分かりやすくいえば「人間の思考のすじみち」のことです。この「思考のすじみち」は、トレーニングすることによって、考えていることを明確にする、いわば、「上手に」ものを考えることができるようになります。本講座では、初学者用に書かれた実践的なテキストをゆっくり読みながら、「ものを考える練習」をします（以下に示す授業計画の進捗は便宜的なもの）。なお、講座の所々でテキストから離れ、論理クイズを使って、楽しみながら論理的能力の訓練も行います。</p>						
科目目標	<p>1. 「論理的思考」とはどのようなものかを理解する。 2. 「論理的思考」能力を向上させる。</p>						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	論理的に考えるための基本	「推論の第一歩」、「推理規則と論理記号」など			講義 演習		
2	論理学と日常言語の落差	「連言記号とくそして>」、「否定」など			講義 演習		
3	推論の実際	「健全な推論と反例」、「選言判断」、「三段論法」など			講義 演習		
4	立論と反論	「議論と説得」、「演繹推理と帰納推理」など			講義 演習		
5	レトリック的推論	「類似性に基づく推論」、「関連性に基づく推論」など			講義 演習		
6	論証の型	「論証の無意識性とその効用」、「論証のパターン」			講義 演習		
7	準論理的論証	「公平一論証」、「定義一論証」など			講義 演習		
8	事実に論証	「例示一論証」、「因果論一論証」など			講義 演習		
テキスト	『実践ロジカル・シンキング入門』野内良三（大修館書店）						
参考書	特になし						
自己学習への指針	各トピックごとに説明をした後、自身で練習問題を解いてもらいながら進め、試験はその中から出題します。毎回、前回の内容を復習してから授業に臨んでください。						
評価方法	単位認定試験						

分野	基礎分野	科目	文化人類学	単位	1	時間数	30
学年	1年	時期	前期	講師名	中山 和久		
科目概要	看護師に欠かせない「対象（患者・個人・人）」の理解・尊重を追求する基礎として、人間を文化の側面から科学的に把握できるようにし、看護を「文化からの構築」の視点で理解できるようにする。						
科目目標	1. 文化の特殊性や多様性を学び、個人の価値観（個性）を理解する。 2. 日本人の文化・社会について理解する。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	看の文化	文化としての看護			講義		
2	人の文化	人間らしさとは何か？			講義		
3	和の文化	日本人を元気にする衣食住			講義		
4	伝の文化	患者様を元気にするコミュニケーション			講義		
5	産の文化	子授け・妊娠・出産・肥立の文化			講義		
6	育の文化	乳児・幼児・児童を元気にする文化			講義		
7	梯の文化	青年と成人を元気にする文化			講義		
8	末の文化	終末期を元気にする文化			講義		
9	災の文化	地域に即した防災・減災			講義		
10	扶の文化	障害に苦しむ人々を元気にする文化			講義		
11	春の文化	季節を活かしたケア			講義		
12	夏の文化	季節を活かしたケア			講義		
13	秋の文化	季節を活かしたケア			講義		
14	冬の文化	季節を活かしたケア			講義		
15	まとめ	ライフステージや環境変化に応じた文化			講義		
テキスト	なし						
参考書	なし						
自己学習への指針	授業中にノートを取り、授業後に読み返して補足すること。わからない語句があれば辞書等で調べる。						
評価方法	講義中小テスト、期末レポート						

分野	基礎分野	科目	社会学	単位	1	時間数	30
学年	1年	時期	前期	講師名	田中 恵		
科目概要	社会科学の一つで、基本的にはあるがままの人間が他者と結び結ぶ社会関係、そこから生み出される様々な社会事象を認識し理解することを目的とする学問です。 保健・看護・医療の分野では、その制度や組織の構造や機能だけでなく、医療従事者や患者ひとりひとりの行為、関係、意識等を社会学理論に基づいて研究する学問です。						
科目目標	人間の社会的共同生活の構造や機能について学びとともに、人間関係を築くための基礎的知識を学ぶ。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	社会学の基礎概念	行為・社会的行為、相互行為、社会関係、地位・役割、自己とアイデンティティ、集団・組織、社会変動			講義		
2	社会学的視点とものの見方	合意とコンフリクト、システムと主体性、意図せざる結果			講義		
3	保健医療と家族社会学	保健医療を取り巻くさまざまな社会、近代家族論、近代家族の危機、未婚化と少子化、近代家族におけるケアの問題			講義		
4	健康・病気の見方・捉え方	健康の定義（健康とは何か）、さまざまな健康観、現代社会と病気・健康			講義		
5	現代社会とストレス	ストレスの理論、ストレスのとらえ方、ストレス対処と資源			講義		
6	健康・病気の社会格差	社会格差と平等、健康・病気の社会格差の諸相、社会格差による健康格差発生メカニズム			講義		
7	働き方・働かせ方と健康・病気(1)	職業とは、わが国における働き方・働かせ方の変化			講義		
8	働き方・働かせ方と健康・病気(2)	働き方・働かせ方による健康への影響、仕事と生活の調和			講義		
9	健康行動・病気行動と病経験	健康行動と病気行動、病経験、病の語り、ヘルスリテラシー			講義		
10	患者－医療者関係とコミュニケーション(1)	コミュニケーション、患者－医療者関係のモデルとコミュニケーション、わが国の患者－医療者関係とコミュニケーションの特徴			講義		
11	患者－医療者関係とコミュニケーション(2)	患者アドボカシー、患者と医療者の協働			講義		
12	保健医療福祉専門職とアクター	保健医療福祉関連職の成り立ち、看護職論の現在、对人的サービス提供者としての保健医療福祉関連職とアクター			講義		
13	性・ジェンダー・家族と保健医療	性別と性差、ジェンダーとケア役割、ジェンダーと健康、結婚と家族、保険医療からみた結婚と家族			講義		
14	地域社会と保健医療	地域とコミュニティ、ソーシャルサポート、地域におけるヘルスプロモーション、地域の保健力、ノーマライゼーションと地域			講義		
15	ケアの社会学	ケアの社会学と対象領域、ケアをめぐる現代的課題			講義		
テキスト	系統看護学講座基礎分野 社会学 医学書院、石川ひろの他著						
参考書							

自己学習への 指針	テキストの次回授業予定箇所（授業で指示する）を一読し、疑問点があればその個所をチェックしておく。また、復習が大切なので、あとで読みやすく理解しやすいように授業ノートを整理すると良い。また、社会の現状分析を行うためには、背景知識として、少なくとも高校で習う程度の歴史と地理の知識があることが望ましい。これらの知識は他の科目の学習にも役立つと思います。また、業務報告書やメールや手紙、あるいは、文学的表現とも違う、科学的な論文・レポート等で必要な文章表現を、社会学を含むいろいろな科目の学習の中で身につけてほしいと思います。
評価方法	単位認定試験

分野	基礎分野	科目	法学	単位	1	時間数	30
学年	1年	時期	前期	講師名	坪内 清久		
科目概要	民主主義社会を担う市民として必要となる「法」に関する基本的な知識・思考方法の習得を目標とした講義・ディスカッションを行う。						
科目目標	1 単なる法律知識の暗記ではなく、主体的に法への理解と興味を持ち、現代社会に求められる法の基礎知識の習得と具体的な活用について理解できることを目標とする。 2 看護の観点から必要な法的知識・法的思考方法の習得を目標とする。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	「法」とは	オリエンテーション 「法」とは何か/法的思考の意義/この授業の最終到達目標について			講義 演習		
2	「憲法」	「憲法」(1) 憲法とは何か/法の下の平等について/判例をベースに GW			講義 演習		
3	「憲法」	「憲法」(2) 思想・良心の自由/表現の自由/判例をベースに GW			講義 演習		
4	「憲法」	「憲法」(3) 職業選択の自由/医療・看護の免許制について/判例をベースに GW			講義 演習		
5	「憲法」	「憲法」(4) 新しい人権/プライバシー権について考える			講義		
6	「民法」	「民法」(1) 民法とは何か/私法とは何か			講義		
7	「民法」	「民法」(2) 契約はどのように締結されるか/学生が関わる法律事案について GW			講義 演習		
8	「民法」	「民法」(3) 交通事故について/不法行為とは何か/私法上の権利の実現方法について			講義		
9	「民法」	「民法」(4) 医療契約とは何か/医療に関する判例をベースに GW			講義 演習		
10	「刑法」	「刑法」(1) 刑法とは何か/刑法の基本原則/刑事事件について、学生と相互に意見交換			講義 演習		
11	「刑法」	「刑法」(2) 医療と刑法/刑事訴訟手続について			講義		
12	「刑法」	「刑法」(3) 模擬裁判/講評			講義 演習		
13	「刑法」	「刑法」(4) 模擬裁判の感想/裁判員裁判について			講義		
14	まとめ	今まで学んだ知識を使って、事例検討を行う			講義		
15	まとめ	今まで学んだ知識を使って、事例検討を行う			講義		
テキスト	看護学生のための法学 医療・介護法務支援ネットワーク						
参考書	—						
自己学習への指針	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの関連部分の事前・事後の読み込み ・日頃から「法」に関する事象・ニュース等に関心を持つ 						
評価方法	単位認定試験・小テスト・レポート・平常点等の総合評価						

分野	基礎分野	科目	心理学	単位	1	時間数	30
学年	1年	時期	前期	講師名	専任教員		
科目概要	発達心理学を中心に講義形式で、方法を知る。人々の抱える心の問題を客観的に理解し、療養看護への問題解決の方法を知る。						
科目目標	人の生涯にわたる心の発達や変化について学ぶことによって、人々の抱える心の問題を客観的に理解できるようになる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	発達とは	発達の定義と諸論			講義		
2	乳幼児期の発達心理(1)	感情の発達 対象の永続性			講義		
3	乳幼児期の発達心理(2)	共同注視 コミュニケーション 社会的参照			講義		
4	ピアジェの発達理論	前操作的段階 保存の概念			講義		
5	親子関係(1)	愛着について ハーロウの実験			講義		
6	親子関係(2)	ストレンジ・シチュエーション法 愛着のタイプ			講義		
7	心の理論	心の存在			講義		
8	コミュニケーションの発達(1)	コミュニケーション行動のレベル 条件づけ			講義		
9	コミュニケーションの発達(2)	記号性コミュニケーション ノンバーバルコミュニケーション			講義		
10	コミュニケーションの発達(3)	感情の表出 身体部位の動作			講義		
11	思春期の心の病	摂食障害の心理的特性			講義		
12	エリクソンのライフサイクル論(1)	第1段階 第2段階			講義		
13	エリクソンのライフサイクル論(2)	第3段階 第4段階			講義		
14	エリクソンのライフサイクル論(3)	第5段階 第6段階			講義		
15	エリクソンのライフサイクル論(4)	第7段階 第8段階			講義		
テキスト	系統看護学講座 心理学 医学書院						
参考書	-						
自己学習への指針	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの関連部分の事前・事後の読み込み ・日頃から「発達心理」に関する事象・ニュース等に関心を持つ 						
評価方法	単位認定試験						

分野	基礎分野	科目	教育学	単位	1	時間数	15
学年	1年	時期	前期	講師名	小田勝己		
科目概要	教育学諸分野を他者に関する側面と自分に関する側面に分けて解説する。						
科目目標	日々の生活を教育的な視点で考えることができる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	教育とは何か	ソクラテスからガードナーまで			講義		
2	教え方、 学び方	ジョン・デューイとジャン・ピアジェについて (リフレクションについて)			講義		
3	実践系の教科	美術・音楽・体育・家庭科はなぜ必要か			講義		
4	パフォーマンス 課題	その起源と実践の歴史			課題 発表		
5	評価とは	代替評価の種類 ポートフォリオ、作品評価			講義		
6	キャリア教育	多重知性の観点から			グループ 学習		
7	教育の現代的 課題	不登校について 他			講義		
8	まとめ 質問の時間				Q&A		
テキスト							
参考書							
自己学習への 指針	授業準備として身近な衣・食・住を観察してください。						
評価方法	単位認定試験（50%）、レポート（50%）の総合評価（合計60点以上を合格とする）						

分野	基礎分野	科目	英語	単位	1	時間数	30
学年	1年	時期	前期	講師名	垣内 淑子		
科目概要	英語の音と発音記号、英文の基本構造の学習 テキストに沿い、現場での看護英語の基本会話の学習						
科目目標	英語の発音の基礎を学び、十二の母音と日本語と異なる子音を自分なりに区別して発音する。 英文の基本構造を理解し、疑問文&否定文、簡単な英文を自分で作れるようにする。 看護英語の基礎単語と会話を練習し、使えるようにする。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	Orientation Entry test Unit 1	Orientation Emergency English / Classroom English			CD listening Handouts Practice		
2	Unit 2 Phonetics	Obtaining personal information English vowel sounds			Pair work Handouts		
3	Unit 3 Phonetics Grammar	Address / Numbers English consonants Preposition			CD exercise Practice		
4	Unit4 Phonetics	Medical Departments English vowel sounds			Role Play Handouts		
5	Unit 5 Phonetics Grammar	Hospital Unit Guidance Review and Quiz: Vowel sounds English Sentence Patterns			PowerPoint Quiz Handouts		
6	Unit 6 Hospital English	Symptoms Checking into the Hospital			CD Practice Handouts		
7	Unit 7 Phonetics	Human Body - External & Internal English consonants			CD Exercise Handout		
8	Unit 8 Grammar	Clinical History Medical Terms: Diseases Preposition / English Sentence Patterns			CD Practice PowerPoint Handouts		
9	Unit 9 Grammar	Patient Teaching Medication Questions & Negative sentences			PowerPoint Handouts		

10	Unit 10 Grammar	Appointments Telling the Time Questions & Negative sentences	CD Exercise Quiz	
11	Unit11	Orientation for Surgery Objects in Patient Room	CD Handouts	
12	Unit 12 Grammar	Vital Signs Morning Rounds Preposition / English Sentence Patterns	CD Handouts Exercise	
13	Review for Exam	Review for the Final Exam Encouragement to Patients	CD Exercise Handouts	
14	Review Grammar	Notice and Review for the Final Exam Questions & Negative sentences	CD Practice Exercise	
15	Preparation for the exam Final Exam	Preparation for the examination Final Examination	CD Examination	
テキスト	クリスティーンのやさしい看護英会話 医学書院 講師作製の配布印刷物			
参考書	Small Talk (Oxford University Press)、「臨床看護英語」医学書院			
自己学習への 指針	授業でわからない箇所はそのつど質問し、ペアワークなどへの積極的参加が重要。 授業内小テストの直しは指示に従って必ず提出すること。 毎回授業にきちんと出席。			
評価方法	授業内での小テスト、授業での発表・参加、ワークシートなどの提出物を考慮 単位認定試験			

分野	基礎分野	科目	日本語表現	単位	1	時間数	15
学年	1年	時期	前期	講師名	竹内恵子		
科目概要	IT化が進む現在、自らの文章を表現することが難しくなっている。自分の考えをまとめ、意見を正確に伝えるために、日本語運用能力と思考力を高め、正確かつ適切な文章表現を習得する。						
科目目標	1 日本語の語彙を増やす 2 正しい話し言葉を習得する 3 正しい書き言葉を習得する 4 自分の考えを口頭で述べるができる						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	ことばと表現に関する知識①	日本語表現の特徴、表記のルール			講義		
2	ことばと表現に関する知識②	慣用句・ことわざ・故事成語等			講義		
3	文の構成方法①	なにをどう書くか～主語・述語・修飾語・被修飾語～			講義		
4	文の構成方法②	三段落構成法と四段落構成法			講義		
5	シーンの使い分け	敬語の種類、敬意表現			講義		
6	文章の書き方①	メールと通信文の書き方を作成する			講義 演習		
7	文章の書き方②	要約文と説明文の書き方を作成する			講義 演習		
8	文章の書き方③	意見文の書き方を作成する			講義 演習		
テキスト	資料配布						
参考書	適宜指示する						
自己学習への指針	文章を書くための一定のルールに従って、自分の考えたことを相手に伝わる表現に変えていく作業が必要になります。失敗を恐れず、自分の文章から正しい日本語表現を学びましょう。						
評価方法	講義終了毎に国家試験に必要な語句の読みと意味をテスト形式で出題する						

分野	基礎分野	科目	人間関係論	単位	1	時間数	15
学年	2年	時期	前期	講師名	奥田 文子		
科目概要	人間関係は、一般社会においても看護においても常に再認識や対応行動が求められている。基礎的な「ヒトとは何か、社会性の発達とは何か、恥ずかしさとこだわり、あきらめと切り替え」などを学ぶ。						
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係を構成する自己と他者について理解できる。 2. 他者との関係形成にかかわる感情、態度、行動が理解できる。 3. 人間関係を構築するための理論や技法が理解できる。 						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	ガイダンス 人間関係の概念と 自己認知	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人間関係とは ・ 自分とは何か、自己の傾向を知る ・ 自己分析シートの作成 			講義 演習		
2	対人認知	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームを通して、集団の中での自分を知る ・ 個性と環境の影響を考える 			講義 演習		
3	対人関係と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対人関係の成立過程 ・ 個人の利益と全体の利益 ・ 葛藤と対処、ライフスキル 			講義 演習		
4	人間関係をつくる コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションとは ・ カウンセリングと心理療法 ・ 傾聴、コーチングなど 			講義 演習		
5	保健医療チームの 人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ チーム医療とは ・ チームワークとチームエラー ・ 多職種連携 			講義 演習		
6	クライアントを支 える人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療関係者とは ・ クライアントと看護職との相互作用 ・ 様々な場面の人間関係 			講義 演習		
7	家族を含めた 人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族という存在 ・ 家族をエンパワメントする ・ さまざまな状況に応じたクライアントと家族 			講義 演習		
8	地域をつくる 人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人をとりまく様々な人間関係を理解する ・ ソーシャルサポート、ピアサポート、セルフ・ヘルプグループ、ソーシャルキャピタルなど 			講義 演習		
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院（2023.2.1 第3版第6刷）						
参考書	授業内で適時指示する。						
自己学習への 指針	他者との人間関係で疲弊しないためには、自分を知る、関係性を理解する、対応することが重要です。受講者参加型の授業形態で、学びを深めていきましょう。						
評価方法	「単位認定試験、提出物、授業態度」の総合評価とする。						

分野	基礎分野	科目	家族関係論	単位	1	時間数	30
学年	2年	時期	後期	講師名	青木 由香		
科目概要	「家族」は私たちにとって身近なものである。しかし、「家族」は身近であるからこそ、個人的な経験から離れて客観的に捉えることが難しい存在であるともいえる。家族関係や、家族と社会の関係を読み解く基礎を学び、現代日本の家族が直面している様々な問題の理解を通して多様化する家族とその支援について考える。						
科目目標	1 家族の多様性について理解し、家族が直面する諸問題を社会との関連から説明できるようになる 2 専門職・支援者として、家族支援のあり方についての理解を深める						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	家族とは何か(1)	家族定義の変遷を概観する。			講義		
2	家族とは何か(2)	家族をめぐる基本概念と類型について学び、日本の家族の歴史的変遷を概観する。			講義 視聴覚教材		
3	ジェンダーと家族(1)	ジェンダーの概念について学び、パートナーシップのありかたについて考える。			講義		
4	ジェンダーと家族(2)	恋愛・結婚をめぐる歴史的変化をたどり、多様なパートナーシップのありかたについて考える。			講義 視聴覚教材		
5	ジェンダーと家族(3)	離婚・再婚をめぐる歴史的変化をたどり、多様なパートナーシップのありかたについて考える。			講義		
6	子どもをもつこと育てること(1)	出産・子育ての歴史的変化と最新の統計データをもとに近年の動向を概観する。			講義 視聴覚教材		
7	子どもをもつこと育てること(2)	子育てをめぐる社会問題について考える①			講義 視聴覚教材		
8	子どもをもつこと育てること(3)	子育てをめぐる社会問題について考える②			講義		
9	子どもをもつこと育てること(4)	子育てをめぐる社会問題について考える③			講義 視聴覚教材		
10	ライフコースと家族	ライフコース論の基礎を学び、家族とケアに関する今日的な課題について考える。			講義 視聴覚教材		
11	ケアと家族(1)	各論：子どもの貧困と家族			講義 視聴覚教材		
12	ケアと家族(2)	各論：家族介護①			講義		
13	ケアと家族(3)	各論：家族介護②			講義 視聴覚教材		
14	家族支援のアプローチ	家族看護・家族支援の考え方			講義		
15	まとめ	学習内容の振り返り			講義		
テキスト	『系統看護学講座 家族看護学』医学書院						
参考書	講義中に適宜紹介する						
自己学習への指針	講義で取り上げるテーマは、簡単に答えの見つかるものではないかもしれない。日々の新聞やニュース等で報道される家族についての話題を参照する等、積極的に取り組んで欲しい。						
評価方法	リアクションペーパー、ワークへの取り組み、単位認定試験の結果などを総合的に評価する。						

分野	基礎分野	科目	看護経済学	単位	1	時間数	15
学年	3年	時期	後期	講師名	奥田 文子		
科目概要	<p>COVID-19の世界的流行や災害復興における経済面の解決が急務となっている。「お金」は、ヒトの幸福追求に欠くことができないが、「健康」も同様の価値がある。看護や医療が途絶えることなく供給されるには、健康状況の変化に対応できる多職種連携及び課題への包括的視点が必要である。</p> <p>これまで「お金や経済」の話は、生命を取り扱う倫理観を歪めないように、看護を含む医療の世界で遠ざけられる傾向にあった。しかし、個人ばかりではなく集団の不健康状態が、国の経済や病院経営にまで影響することがわかってきた。</p> <p>看護の価値および看護労働を経済的視点で可視化し、健康支援の戦略として認識する。</p>						
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護サービスの経済的特性を理解し、その可視化と有用性の根拠を提示できる。 2. クライアントおよびその家族をエンパワメントするための多職種連携チームを理解する。 3. 多職種連携チームの「連携を図る能力」とは何か、看護職自身の労働環境を理解する。 						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	授業ガイダンス	授業の進め方 経済とは、医療経済学と看護管理			講義 ワーク		
2	看護経済学とは	看護経済学とは 看護サービスの価値とは、価値交換、			講義 ワーク		
3	日本の健康課題	我が国の健康問題の現状と課題 健康の決定要因、健康格差			講義 ワーク		
4	看護の課題と医療の課題	診療報酬制度、「医療・介護・福祉」の3保険同時改訂、 看護の対象者、病人役割と当事者意識、セルフ・ケア			講義 ワーク		
5	看護評価 仕事・労働・活動	評価と医療安全、チームステップス ライフスキル、哲学的思考、人生感情曲線			講義 ワーク		
6	看護の価値	対象者へのエンパワメント、国際生活機能分類（ICF）、 ニーズとデマンド、マズロー五段階欲求説			講義 ワーク		
7	まとめ（1）	看護サービスの経済的特性のまとめ			講義 ワーク		
8	まとめ（2）	総合論議			講義 ワーク		
テキスト	系統看護学講座「看護管理」看護の統合と実践1 医学書院（2024.1.6 第11版1刷）						
参考書	「看護経済学入門」金井 Pak 雅子（ライフサポート社）						
自己学習への指針	ニュースやネット配信される社会の出来事に関心を持ち、授業で活用する。						
評価方法	「単位認定試験、提出物、授業態度」の総合評価とする。						